

全道の国語教育研究組織の動向（順不同）

地区	研究団体名／代表者	研究内容・研究主題等	活動内容等
旭川	旭川市教育研究会 国語部 国語部部長 北川 恒 （旭川市・東町小） 研究部長 椎名 俊文 （旭川市・神楽中）	言語活動を通して自らの考えを築き、つなげる言葉の力を高める授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 167名 ・小、中それぞれ「話す・聞く」「書く」「読む～物語文・文学」「読む～説明文」「読む～伝国」の計10委員会では活動している。 ・次年度上川・旭川大会の授業者・提言者や、市内の若い教職員を対象とした「つながる研修会」、日頃の実践交流を行う「冬季研修」を開催し、研究の浸透と深化、実践力の向上を図っている。 <p>4月 部会総会・領域別会議（中止） 5月 研究推進運営委員会（中止） 6月 研究推進運営委員会（中止） 7月 領域別会議 8月 つながる研修会 9月 研究推進運営委員会 10月 旭川市小中学校教育研究大会（中止） 研究推進運営委員会 12月 冬季研修 2月 研究推進運営委員会</p> <p>※「中止」は感染症の影響</p>
函館 小学校	函館市小学校 国語教育研究会 会長 紺野 克典 （函館市・大森浜小長） 幹事長 福崎 梢 （函館市・大森浜小） 研究部長 糸畑 由佳 （函館市・神山小）	日常生活に生きて働く国語の力を育む授業の創造 ～「言葉による見方・考え方」を働かせた授業を通して～	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 51名 ・「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「知識・技能」の4部会で研究を進めている。 <p>4月 運営計画立案、研究推進計画立案、事務局会議 5月 総会研修会（紙面による情報の周知、承認）、役員会 6月 常任幹事会 6月～12月 各校にて実践を深める。 1月 冬季研修会（実践交流会） 2月 研究集録「国語教育」発刊</p> <p>※新型コロナウイルス感染予防の観点から、感染拡大がおさまるまで月例会等は見合わせる。その間、事務局や研究部より会員に向け情報提供を行うほか、各校にて各自実践を深め、その成果について冬季研修会にて交流会を行う予定。</p>
函館 中学校	函館市中学校 国語教育研究会 会長 小林 徹也 （函館市・赤川中長）	実生活に生きてはたらく国語の力を育む授業の創造	<ul style="list-style-type: none"> ・会員数 32名 ・4部会（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語事項」）で活動を進めている。 <p>・令和2年度の活動予定</p>

	幹事長 長谷川 敦也 (函館市・恵山中) 研究部長 森谷 剛 (函館市・附属中)		5月 総会 6月 例会 7月 例会 8月 学習会 9～11月 授業研究 12月 例会 1月 学習会 2月 会報「国語教室」発行
<u>小樽</u>	小樽市中学校 国語教育研究会 会長 黒川 裕之 (小樽市立松ヶ枝中学校)	現在テーマの設定はありません	・小樽市教育研究会中学校国語部会への講師、助言者の派遣。 ・小樽市内の公開授業、公開研究会への参加。
<u>十勝</u>	十勝国語教育 研究サークル 会長 杉澤 諭 (幕別町・白人小学校) 事務局 山根 由之 (足寄町・足寄中学校)	ことばの力を生きる力に ～言葉の力を豊かに育む 楽しい授業の創造～	本サークルは、55名の教職員で構成されている。十勝、そして帯広市の国語が大好きな先生の集まりである。研究テーマを設定し、部会ごとに研究推進している。その他にも、日々の実践を交流したり、研究会等への参加促進を行っている。 ・第47回小学校授業研究会 → 中止 ・第31回中学校授業研究会 → 中止 ・第58回一泊研修会 → 中止 ・第50回サークル合同研究会 → 中止 ・研究紀要「1年間のあゆみ」発刊→中止 ・会報「ことば」の発行 → 中止 ※今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、活動を休止している。現在、オンラインでの研修会を模索しており、目処がつき次第、試験的に開催する予定。
<u>留萌</u>	留萌地方 国語教育研究会 会長 熊倉 一弘 (初山別村立 初山別中学校 校長) 事務局長 明石 貴宣 (苫前町立 古丹別小学校 教頭) 企画研究部長 大内 崇 (留萌市立 留萌中学校 教諭)	「あい」を高める国語の授業の創造 ① I (私) : 「知識・技能」を高めるために、子ども一人一人の国語の力を高める。 ②～合い(学び合い・伝え合い) : 「思考力・判断力・表現力等」を高めるために、学び合い・伝え合いを充実させる。 ③愛(愛情・愛着) : 「学びに向かう力・人間性」を高めるために、子どもが言語活動に親しみをもつ	・7月8日 総会(紙面) ・10月上旬 留萌地方国語教育研究会実践交流研修会小平集会の開催 ・11月12日 留萌地方国語教育研究大会天塩大会(会場:天塩小学校)の開催 ・会報『るこく』発行(年3号発行) ・令和2年度は留萌管内小中学校教職員37名で活動、年会費2,000円 ・『国語教育実践記録集 第43集』年度末に発刊

<p><u>根室</u></p>	<p>根室管内 国語教育研究会 会長 上原 哲朗 (根室市・花咲小校長) 事務局長 大場 佳 (別海町・別海中央小)</p>	<p>国語科で育む資質・能力と授業改善に係る研究</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 ・研究会 ・各種研究会参加（授業者、研究協力者等） ・会員の公開授業、研究協力 ・教育フェスティバルにおける実践発表 ・会員数 30 名 <p>※上記は、昨年度の実績。今年度は会議、研修、実践交流のほとんどが中止、自粛となっている。</p>
<p><u>空知</u></p>	<p>空知 国語教育研究会 会長 石成 牧子 (深川市立深川中学校長) 事務局長 菅原 寿一 (滝川市立 明苑中学校主幹教諭) 研究部長 岩城 勇太 (上砂川町立 上砂川中学校教諭)</p>	<p>伝え合う活動を通して、確かな力を育む授業の究明</p>	<p>本年度の活動</p> <p>9月29日 空知教育センター研修講座へ講師の派遣</p> <p>10月～12月 オンライン上での実践交流予定</p> <p>2月 冬季研修会（予定）実践交流と令和5年度全道大会開催に向けて</p> <p>※今年度はなかなか一斉会合を開催することができず、管内的な研修会はもとより、3年後の全道大会開催に向けての準備も予定していた動きが思うように取れずに苦心している。しかし、事務局や研究部を中心に可能な範囲で情報を交換しながら発信する準備を進めている。</p>
<p><u>五狩 小学校</u></p>	<p>石狩管内教育研究会 国語（小）部会 部長 山本 麻千子 (江別市・大麻小) 事務局長 伊賀 信之 (北広島市・西の里小)</p>	<p>考えの形成につなげる新しい時代の国語教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・実技理論研修会 青木伸生氏（筑波大付属小学校教諭） 今年度は、中止。 ・石教研二次研究協議会 10月18日（金） 今年度は、中止。 <p>今年度の活動に関しては、2年研究の活動を3年の研究とし、研究の初年度という位置付けとした。新型コロナウイルスの影響により、実技理論研修会、石教研二次研究協議会等が中止になったことや教科書が新しく光村図書に変更したことから、今年度に関しては、各市町村サークルに指導案を作成していただき、それを指導案集として次年度の研究に活用していくことにしている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数 171 名
<p><u>五狩 中学校</u></p>	<p>石狩管内教育研究会 国語（中）部会 部長 梅原 健史 (千歳市・勇舞中学校) 事務局長 本間 幹英 (江別市 江別第二中学校)</p>	<p>研究主題：主体的な思考・判断・表現等を伴う学びの創造～記述と対話を中心とする言語活動の工夫を通して～</p> <p>研究の視点 (1) 「生徒に身につけさせたい力」の明確化、及びその力の育成</p>	<p>部会員の取組内容 前期（第二次研究協議会開催予定日だった10月16日まで）は、部会員が研究主題に沿ったレポートを作成し、市町村単位で交流を行う。 各市町村では、推進委員を中心にレポート発表・協議（交流）をし、成果と課題を明らかにする。各市町村での取組後は、実践資料集を作成して各部会員が今後の授業にいかすとともに明らかにされた成果と課題を石教研情報・部会だより等で来年</p>

		<p>に有効な言語活動の在り方</p> <p>(2) 単元を通して「力の育成・豊かな言語活動の醸成」を図るための指導の在り方</p> <p>(3) 「力の育成・豊かな言語感覚の醸成」に対する評価の在り方</p>	<p>度につなげていく。</p> <p>後期(10月16日以降)は、下記の予定で理論研修会を開催する。</p> <p>日時 11月20日(金) 13:00~15:00</p> <p>講師 梅村 武仁 氏</p> <p>「主体的な学びを深める国語授業の在り方」(仮)</p> <p>場所 石狩教育研修センター</p> <p>レポート集の構成</p> <p>○一人1レポートの提出</p> <p><様式>A4サイズ・縦置き・横書き 両面印刷で120部</p> <p><内容>個人レポートについては「教科書教材(学年ごと)についての実践研究」を原則とするが、部会員の研究に資するものであれば「教科書教材以外についての実践研究」の内容も可とする。また過去の他者レポートの追実践でも構わない。その場合、基にしたレポートを明記する。さらに今年度は、「新型コロナの影響下における、感染症対策を講じた形での授業」について『コロナ禍の中で、普段どのように授業を行っているか』についての実践レポートも可とする形で進める。レポートは「単元を通して生徒に身につけさせたい力」「単元の指導計画(略案)」「実践の振り返り」の3つをまとめる。</p>
宗谷	<p>宗谷教育研究 連携会議 国語部会</p> <p>部長 高橋 正一 (猿払村・鬼志別小)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・宗谷管内の先生方の実践交流の場をつくる ・管内10市町村のサークルと連携し、情報交流・共同研究をすすめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症拡大防止の観点から、例年実施しているセミナーや分科会は中止 ・コロナ禍の中でも部員の交流を図る活動を検討中 ・8月下旬 総会を紙上実施 ・部会情報の発行 ・会員数 79名
札幌 小学校	<p>札幌市教育研究推進事業 小学校国語</p> <p>研究部会長 猪股 嘉洋 (札幌市・新陵小長)</p> <p>研究部長 安岡 剛 (札幌市・幌南小)</p>	<p>学び合いを深めることで、学ぶ力を育成する授業の創造</p>	<p>10の行政区ごとに全市研究テーマに基づいた授業づくりを通して研究を進めている。2年計画を予定していたが、コロナ禍のため3年計画とした。2年目の今年度は、コロナ禍でも「授業改善」「人材育成」「分かる・できる・楽しい授業づくり」の充実のため、国語担当の校長先生を含めた書面会議を行ったり、国語部員が全市研究テーマに沿って行った授業を部長が集約し、活動を広げたりしている。</p> <p>①「授業改善と人材育成」</p> <p>②「分かる・できる・楽しい」授業</p> <p>③教育課程編成の手引(札幌市教育委員会発行)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/9 中止→春の研究集会…授業公開・実践交流等 ・10/13 中止→秋の研究集会…授業公開・実践交流等 ・2/2 中止→全市学習会…手引や新学習指導要領についての講演等 ・中止→全市研究部会4回 各区の研究推進の成果や課題の交流・協議等

			<ul style="list-style-type: none"> ・中止→各区研究部会 12 回 春・秋の研究集会に向けて指導案検討、準備、日常実践の交流等 ※過去の各区の指導案や学習会資料については、校務支援キャビネットより閲覧でき日々の実践に役立てることができる。
札幌 中学校	札幌市教育研究推進事業 中学校国語 研究部会長 三分一 晶 (札幌市・日章中長) 代表幹事 小熊 剛彰 (札幌市・あいの里東中)	基底研究主題 「主体的・対話的で深い学びが生まれる国語の授業」 研究副主題 「学習課題が生まれる言語活動と課題解決に向けて自分が工夫できる国語科の授業」 この他に 10 の行政区ごとに、研究主題を設定し、授業研究を進めている。	2 年継続研究の 2 年目 ・4/20 運営委員会③ 昨年度の成果を受けて令和 2 年度の研究推進体制等に関する事項の協議。 ・6/9 春の研究集会 (各区公開授業) ・10/13 秋の研究集会 (各区公開授業) 授業公開、実践交流、研究討議等による検証、集約。令和 3 年度の研究について協議、再構築。(公開授業のための指導案検討などの会合を、地区ごとに年 9 回行う) ・11/10 校内研究推進に関わる研修会 校内研究の推進に関わる講演、情報交流 ・2/8 運営委員会④ 令和 2 年度の成果と課題、令和 3 年度以降の研究推進の見通しの交流、協議。 ・会員数 318 名 (市内中学校国語科教員) ・懇親会について…退職される先生を囲む会 (2 月上旬) ※以上の予定であったが、今年度は全体で集まったの会議、集会等は中止
釧路	釧路国語教育研究会 会長 松岡 伸之 (釧路市立北中学校長) 事務局長 太田 諭 (標茶町立 中茶安別小中学校教頭) 研究部長 土藏 辰弥 (釧路町立遠矢中学校)	全道大会に向けた研究理論の構築と、授業の実践	5 月 定期総会 (中止) 7 月 全道大会主題および研究理論の策定開始 8 月 夏季研修会 (中止) 1 月下旬 冬季研修会 ※研究部会及び事務局会議を、夏季・冬季研修会の前後を中心に年間 7～8 回程度開催。 ※広報部発行の会報「ひこばえ」を年間 3～4 号程度発行。
日高	日高管内 国語教育研究会 会長 大石 恭義 (浦河町立 浦河東部小学校)	○言葉の力が身に付く授業の創造 ①新指導要領の主旨に沿った授業づくりのあり方に係る研究 ②「学びに向かう力」の評価方法についての研究	1 管内研究大会の開催 (1) 研究授業 (2) 実践発表 2 学習会の開催 年間 3 回の開催 3 国語授業実践交流通信「ことのは」の発行 (通年) (1) 実践に係るレポートの交流 (2) 年間 3 回を予定
檜山	檜山管内小中学校 国語教育研究会	確かな言葉の力を育む授業の創造	・7 月 事務局研修会 ・8 月 夏季学習会 ・1 月 冬季学習会 ・2 月 事務局研修会 ・会員 16 名

	<p>会長 晴山 泰文 (上ノ国町・河北小長)</p> <p>事務局長 西村 昭彦 (厚沢部町・厚沢部小)</p> <p>研究部長 伊藤 邦明 (乙部町・乙部中)</p>		※今年度、研究大会等は活動中止
<u>渡島</u>	<p>渡島国語教育研究会</p> <p>会長 蛭子 友正 (松前町・松前中長)</p> <p>幹事長 阿部 奈央美 (北斗市・上磯中)</p> <p>研究部長 西村 駿 (森町・森中)</p>	<p>言葉を大切にして読み、自分の思いを広げ・深める子どもの育成</p>	<p>・会員数 33 名</p> <p>・夏期と冬季学習会において、実践交流を行っている。</p> <p>・発問の精選と読みを深める指導過程について授業研究を進めている。</p> <p>4 月 総会・学習会</p> <p>8 月 学習会</p> <p>9～11 月 授業研究</p> <p>12 月 学習会</p> <p>3 月 研究集録「ことば」発行</p>
<u>オホーツク</u>	<p>網走国語教育研究会</p> <p>会長 潮田 信 (北見市立西小学校校長)</p> <p>研究部長 土谷 亮祐 (湧別町立湧別小学校)</p> <p>事務局長 尾中 基浩 (大空町立東藻琴小学校)</p>	<p>研究主題 豊かな言葉がひびき合う中で、確かな言葉の力を育む国語科授業の創造</p> <p>→新学習指導要領で示された、国語科における「見方・考え方」を働かせながら、言葉にこだわって思考したり伝え合ったりする授業とはどのような授業かを追求する。</p>	<p>① 4 / 2 5 令和 2 年度 総会 (中止、紙面にて承認を受ける)</p> <p>② 第 4 4 回 網走国語教育研究会・公開研究会の開催</p> <p>③ 会員冬季研修会の開催 期日：1 月下旬～2 月上旬 会場：網走ブロック</p> <p>④ ミニ網国研の開催</p> <p>⑤ 実践記録の収集</p> <p>⑥ 研究集録の発行</p> <p>※②～④は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら開催の有無、開催方法を検討する</p>